

# ニュースレター 事業短信

from AIKOH

2018(平成30)年7月13日(金) No.151

<発信者>社会福祉法人愛光理事長・法澤奉典  
043-484-6391(本部) / 043-484-6571(理事長室直通)

(URL) <http://www.rc-aikoh.or.jp/>

(Eメール) [mail@rc-aikoh.or.jp](mailto:mail@rc-aikoh.or.jp)

## CONTENTS (今月号の内容)

- \* 日誌抄録(1頁) : (2018年6月1日～)
- \* おもな動き(2頁) :
  - ・評議員会で2017年度決算承認
  - ・法人人事(7月1日発令)
  - ・職員状況(2018年6月中)
- \* 現場の内外で(3頁) :
  - ・課題と向き合う=はちす苑 ほか
- \* 情報&ニュース(4頁) :
  - ・なんと千葉県は「ワースト」
- \* マイタウン(5頁) :
  - ・前へ! Aikoh ともいきプロジェクト
- \* 三代目燈台守(6頁) :
  - たかが世間話ですが…

## ▽日誌抄録(2018.6.1～)

月/日(曜)	記事
6 / 1 (金)	2019年度職員採用選考
6 (水)	関東地方梅雨入り
8 (金)	職員研修(リスクマネージャー養成研修:千田ホール)
9 (土)	理事会(本部第1会議室) / 施設長会議
12 (火)	史上初の米朝首脳会談(シンガポール)
13 (水)	サービス(管理)責任者会議(本部第1会議室)
14 (木)	本採用前面接(~15)
15 (金)	千葉県民の日
18 (月)	大阪府北部で震度6弱の地震
19 (火)	職員研修(介護マイスター養成研修:千田ホール)
21 (木)	職員研修(コンプライアンス:千田ホール)
22 (金)	山王地域ケア推進会議(千田ホール)
24 (日)	定時評議員会(本部第1会議室)
26 (火)	後援会運営委員会(本部ボランティア室)
27 (水)	施設長会議(本部第1会議室) / 職員研修(感染症対策:千田ホール)
29 (金)	関東地方梅雨明け
7 / 2 (月)	辞令交付(本採用・昇進・昇格・異動)
6 (金)	オウム事件死刑囚7人の刑執行 / 西日本で集中豪雨で被害(~8日)
7 (土)	千葉県長南町で震度5弱
11 (水)	佐倉市指定管理事業者公募ヒアリング(佐倉市役所)

「えっ、もう明けたの?!」

中休みだろうから、きっともうひと雨くるだろうとばかり思い込んでいた矢先の梅雨明け宣言でした(6月29日)。ただ西日本に先がけて関東地方が一足早く、というのもめずらしいことだといぶかしくも思っていたら、梅雨明けの遅れていた地域を襲った集中豪雨。降りやまぬ雨は人命を奪い、甚大な被害をもたらしました。

愛光では、愛の灯台基金を通じ職員に呼びかけて、今回の西日本の豪雨災害に義援金を被災地に届けることにしました。

## ▽おもな動き

### 評議員会で2017年度決算承認

愛光の年間事業を総括する定時評議員会は、6月24日(日)本部第1会議室において開催されました。事業報告並びに決算報告について承認されました。

### 学童保育等指定管理者公募

愛光が児童福祉分野への進出を果たした2014年(平成26年)4月から今年度末で丸5年。佐倉市南部児童センター及び学童保育所(7か所)の業務委託契約期間の満了を控え、改めて事業者公募に応募手続きをとりました。7月11日(水)、佐倉市役所において審査のためのヒアリングに参加。近日中に結果が通知されることになっています。

### 法人人事(7月1日発令)

#### 【本採用(正職員)】

ルミエールケアスタッフ2名/めいわ支援員2名/リホープ支援員2名  
健康管理センター(障害者支援事業部)看護師1名/よもぎの園支援員1名  
はちす苑ケアスタッフ1名/主任ケアマネジャー1名/学童保育所指導員1名

#### 【昇格】

はちす苑主任ケアスタッフ(2等級→3等級)  
はちす苑健康管理室看護師(2等級→3等級)

#### 【昇進】

めいわ主任支援員(支援員)

#### 【異動(配置替え)】( )内は異動前所属

ルミエールケアスタッフ(めいわ支援員)/同(同)  
めいわ主任支援員(福祉相談室相談員)/同支援員(ルミエールケアスタッフ)/  
同(リホープ支援員)/同(同)/同(ワークショップかぶらぎ指導員)  
リホープ支援員(めいわ支援員)/WSかぶらぎ指導員(めいわ支援員)  
福祉相談室相談員(めいわ支援員)/学童保育所指導員(ルミエールケアスタッフ)

#### ■職員状況

(2018年6月中)

\*採用:3(パート3)  
\*退職:4(正職1・パート3)  
\*2018年6月30日現在:職員現員353人  
(正職164/サポート又は常勤嘱託42/パート又は非常勤嘱託147)  
\*育児休業:0 \*休職:1

## ▽現場の内外で

### 課題と向き合う＝はちす苑

#### ◆感染症ゼロをめざす

今回外部講師で東邦大学医療センター佐倉病院の感染管理認定看護師の寺井幸子先生に講演をお願いした。愛光の多方面から38名の参加があった。今まで苑内で年2回の実践訓練をしていたが、専門家の立場からはちす苑の指導内容等の評価を含めて見ていただいた。

研修では感染症の基本についての講義と実際の手洗いと汚物処理について実践した。吐物処理のための必要物品の簡素化と、手指消毒回数を今以上に多くすることで感染症の拡大を予防できることを改めて理解した。

講師から、「はちす苑は感染症への理解と対策が良くできていてびっくりしました」とおほめの言葉をいただいた。今後も毎年講師を招いてよりいっそう感染症の理解と予防に努めたい。

はちす苑は今年度も「感染症ゼロ」と報告できるように努力していきたい。

(はちす苑健康管理室主任・松永末美)

#### ◆事故対策

はちす苑で2018年度に発生した事件事例が、6月末で転倒骨折がすでに3件起きている(昨年度同骨折事例は10件)。また誤投薬事例も6月に1件発生している。服薬者とりちがえ事故は、2017年4月に発生して以降、「顔写真付き服薬カード」を導入して1年以上再発を防いできたところであった。この間、外部講師を招いてリスクマネジメント研修を実施し、「ヒヤリハットビフォー(before)」の導入をはかり、今年度は施設内にリスクマネジメント委員会を設置して事故防止の取り組みに力を入れてきた。それだけに、今後更に何をすべきか、取り組みには頭を悩ませるところである。

今まではちす苑では主に主任以上の職員が中心となって対応策を検討し、現場に流すことでケアに反映させていた。今後も主任以上の職員がその役割を責任をもって担うことには変わりはない。ただ今年度設置したリスクマネジメント委員会活動の中心にサブリーダー(副主任)を置き、対応策検討の一翼をサブリーダーに担ってもらっている。現場の意見や思いをより近い位置で汲みとり、今までにない発想等が対応策に反映されることを期待している。

マニュアル通りケアが実施されなかったり、適切なケアが実施されないことで起きた事故も多く発生しているのが現状である。事故の発生を失敗で終わらせず、全体で経験を積み重ね、対応策について考えていける体制づくりを、改めて意識して行っていきたい。

(はちす苑課長・戸室輝大)

### 県民の日とポップコーン

6月15日(金)は千葉県民の日。児童センターは「第4回・行こうよ!あそびのフェスティバル」を開催した。乳幼児親子163名、小中学生90名、計253名が来館。

今年は、前日から250名分のポップコーンを大鍋で作り、当日来館者に配布した。乳幼児の保護者からは「塩の加減が薄味で、小さい子にはちょうどいい」と好評だった。部活を終えて午後来館した中学生には一人4袋の大盤振る舞い。思いがけないプレゼントに大喜びだった。

(佐倉市南部児童センター 鈴木信子)

## ▽情報&ニュース

### なんと千葉県は「ワースト」

「介護職が最も貴重とされる都道府県」といえば聞こえはいいのですが、裏を返せば「介護職不足が最も深刻な地域」という意味になります。千葉県がそんな不名誉なランキングの上位にあることがこのほど明らかになりました。(2018年6月22日、千葉日報記事より)

#### ◆2025年には33万人が不足

厚生労働省が6月21日に公表したデータによって、7年後の2025年の介護の担い手の需要と充足の見込みが明らかになりました。2025年には全国で255万人の介護職員が必要とされています(16年現在で約190万人)。これからの7年間で55万人増やす必要があるのに対して、このままだと33万7千人が不足する計算になります。

#### ◆千葉はワースト2位

全国平均で介護職の充足率は86.2%。都道府県別のワースト・ランキングをみると、千葉県はコンマ以下の差で、福島に次ぐ全国第2位(両県とも74.1%でほぼ同率)。東日本大震災の影響が大きい福島県の場合とちがい、千葉県の状況は「全国最悪」といいようです。千葉県の介護職の有効求人倍率が4.54倍(1人の求職者に対して4人強の求人がある状態)。「千葉のような大都市部では他の産業と人材の奪い合いとなるのが主な要因」とし、さらには「介護職員を養成する大学、専門学校が11校あるが、入学者は減少傾向が続く。「親や教師が『介護の仕事は大変だから』と進学に反対するケースも目立つ」と、本県における人材問題の背景事情を説明しています。

充足率第1位の山梨県(96.6%)とは20ポイント以上の大差がついています。山梨は「健康上の問題で制限されずに日常生活を送れる『健康寿命』が、16年に全国で男性1位、女性3位。市町村が介護予防事業に熱心なことが背景にあるとみられ、県は『25年の介護サービス需要を抑える要因になっているのではないか』とコメントしているそうです。

#### ◆根本原因と対策

繰り返し報道され訴えられても一向に改善される気配のない介護人材不足最大の要因は「なんとといっても低賃金にある」としています。「いくらやりがいがあっても、待遇面で就職や転職のときに選択肢から消してしまう人も多い。政府はさらなる処遇改善を進める必要がある」という指摘は当然。これに対して厚労省は「処遇改善のほか、人手不足に備えて介護ロボットや情報通信技術(ICT)の活用、外国人材の受け入れ環境整備に取り組む」と言っていますが、これでは「実効性は未知数だ」と記事は厳しい見方で結んでいます。

#### ◆政治と行政の責任大

こういう記事からさほどの衝撃を受けなくなっていること自体が危機そのものです。差し迫った問題に直面していない人には「聞き飽きた。もうウンザリだ」というムードになってきます。しかしいずれはだれもが「我が事」になります。それをその場しのぎの対症療法で問題先送りをしていけば、ツケはいつか回ってくることもわかっているはず。そのツケが回ってくるのは介護の手を必要とする国民だし、最前線でニーズを受けとめていかなければならない現場です。

## ▽マイタウン

### 前へ！Aikoh ともいきプロジェクト

#### ◆地域共生社会

すみなれたところで暮らす。人びとが笑顔で声をかけあうまち。子どももおとなもお年寄りも、障害をもつ人も、おたがいにささえあい、たすけあって、共に生きる…それが地域共生のまちづくりです。

#### ◆地域志向の総合的福祉サービスの提供

愛光は来年4月に佐倉移転25周年を迎えます。千葉市内からの事業所移転にあたって、私たちは福祉施設が地域社会の支えなくしてはありえないことを体験しました。それをきっかけに、愛光は「地域志向の総合的福祉サービスの展開」を合言葉に、この四半世紀を歩んできました。福祉に関する相談窓口の設置、利用者を全世代、あらゆる障害をもつ人へと広げる努力もしてきました。そして、いまや社会福祉法人はその使命として、地域福祉を担うことを期待される時代になっています。

現在愛光は障害者福祉、高齢者福祉に関する既存の事業に加え、「総合相談センター」の開設（2013年）、佐倉市南部児童センターと学童保育所（2014年）及び佐倉市南部地域福祉センター（2016年）の指定管理者受託と、ビジョンの実現に向けた体制を整備してまいりました。

#### ◆“共に支える、共に生きる”

国では『我が事、丸ごと』をキャッチフレーズに、地域共生社会の実現を打ち出しています。住民レベルでは、全国各地で「子ども食堂」のとり組みがはじまっています。それは地域住民による自発的な支え合いの拠点づくりの動きです。愛光も積極的にその活動をサポートし、また必要な資源開発にとり組んでいくことを中期経営計画の重点に挙げているところです。そのスローガンを“共に支える、共に生きる”としました。

#### ◆ともいきプロジェクト

このスローガンを実践しようと、いま私たちは、佐倉市南部地域に二つ目の「子ども食堂」開設に向けて準備しています。それを愛光がすすめている「地域共生」関連事業の一環として位置づけ、私たちの一連のとり組みを「ともいきプロジェクト」と呼ぶことにしました。

お気づきのように「ともいき」は「共生（キョウセイ）」の訓読み（日本語読み）です。仏教の教えとして、またある社会福祉法人の名称として使われている例がありますが、あまり見聞きしたことのないことばだと思えます。「共生」を「ともいき」と読めば、すこしやさしく、親しみやすく、また人びとの思いに寄り添うように感じませんか？

総合相談センターも地域福祉センターも、そしてこれから開設を目指す地域の中の新たな交流の拠点も、地域社会で暮らす皆が“ともいき”を共感できる場所にしたいと願っています。

## たかが世間ばなしですが…

さんざんけなしておいて、思わぬ成果を見せられて態度豹変（ひょうへん）。いわゆる“手のひらがえし”である。つめたいかと思えばあたたかくもなる「人の心」。

ワールドカップ・サッカーのことである。私はサッカーそのものに関心がないのだが、これほどマスコミやネットの世界で大騒ぎしていると、つい耳にも入ってくるし、それは社会現象として気になる。新聞のコラムも、さっそくとりあげていた。コラムニストが注目したのは、やはり世論の豹変ぶりだった。その落差の激しさをこんなふうにととえていた。

落語に『火焰太鼓（かえんだいこ）』というのがある。古道具屋が火事場から拾ってきた汚い太鼓の話である。おかみさんはそんなものが売れるはずがないと叱る。

「どうしておまえさんはものが分からないのかねえ」

ところがさる大名にその太鼓が300両で売れる。お金を目の前にしたこのおかみさんの変わり身の早さがおかしい。

「あらあ、おまえさんは商売が上手」

これは東京新聞の『筆洗』の記事（6/26）。

開幕前の日本代表チームは、成績不振や監督交代など、評判は最低・最悪だった。期待も低調で熱は冷え切っているかのようだった。火焰太鼓が高値で売れる前のおかみさんの態度と同じだ。売り物にならないものばかり仕入れてきて、どうみても商売下手の亭主に愛想がついていた。

別のコラムはこうだ。

くいじわるな上司、クレームを言い立てる客、隣人を見下すママ友……。そういう理不尽を撃退した出来事を紹介し、スカッとしたり度合いを測るテレビ番組がある。それまで人を小バカにしていた相手が、こちらの実力を知ったときの狼狽（ろうばい）ぶりなど「スカッと度」最高だ／……（予想外の結果に）一

転、西野朗監督の「神采配」をたたえ、本田圭佑選手を「大明神」とあがめる。手のひら返しの見本というべきか／だからその逆の現象も起きうるのがニッポン社会の怖さである。バッシングと賛嘆はどうやら紙一重なのだ>（6/26、日経新聞『春秋』）

“たかがサッカーばなし”には続きがあった。予選リーグポーランド戦の終盤、日本代表チームは1点負けながら時間稼ぎのパス回しを続けた。結果的にはそれが功を奏して決勝リーグ進出を果たした。しかしフェアプレーをかなぐり捨てた戦いぶりともみえた。

今度は落語やテレビ番組ではすまなくなつた。なんと持ち出されたのは武士道。

かの宮本武蔵が巖流島の決闘にわざと遅れたというあの逸話である。「命がけの武蔵の兵法が、後の世の剣術の美学と違うのも当然だろう」とは、この奇策が武蔵の戦法に通ずると言いたいようだ（6/30、毎日新聞「余録」）。

肯定派にこういう見方もあった。「これまで日本はスポーツでも外交でも、正攻法にこだわり過ぎたきらいがある。その意味では日本社会の成熟の表れとも言えよう」（6/30、産経新聞「産経抄」）

これはやや“大人の世界”の話になり過ぎていように思える。サッカーにしる野球にしる、子どもたちに人気のスポーツだ。学校では教育の一環として行われているから、「フェアプレー」「正々堂々」の精神が大事と教える。子どもから、「ああいうのはいいの？」と聞かれたらどう答えるのだろう。

そうはいっても決勝リーグ進出はめでたい。オトナたちはこんなところでお茶を濁す。

<日本のファンの間でも甲論乙駁（こうろんおつぱく）があろう成り行きだが、W杯大会でこんな論議ができるのも幸せのうちというべきか。次は堂々たるベスト8入りによってサムライブルーの真価を世界に示してほしい>（6/30、毎日新聞「余録」）

（法澤 奉典・のりざわ ともり）